

# ライフ・ジャーニー (かしこく育てるコース) 【愛称:最高の人生の描き方】 【運用報告書(全体版)】

(2021年9月16日から2022年3月15日まで)

第 8 期  
決算日 2022年3月15日

## 受益者の皆さまへ

平素は格別のお引立てに預かり、厚くお礼申し上げます。

当ファンドは投資信託証券への投資を通じて、世界各国の株式、債券および不動産投資信託（リート）等に分散投資します。当期についても、運用方針に沿った運用を行いました。

今後ともご愛顧のほどお願い申し上げます。

## 三井住友DSアセットマネジメント

〒105-6426 東京都港区虎ノ門1-17-1  
<https://www.smd-am.co.jp>

■口座残高など、お取引状況についてのお問い合わせ  
お取引のある販売会社へお問い合わせください。

■当運用報告書についてのお問い合わせ

コールセンター 0120-88-2976  
受付時間：午前9時～午後5時(土、日、祝・休日を除く)

## ■当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信／内外／資産複合
信託期間	無期限（設定日：2018年5月16日）
運用方針	投資信託証券への投資を通じて、世界各国の株式、債券および不動産投資信託（リート）等に分散投資します。
主要投資対象	当ファンドは以下の投資信託証券を主要投資対象とします。 ブラックロック・グローバル・インベストメント・トラスト/ ブラックロック・エンハンスト・ストラテジック・アロケーション・ファンド（アキュムレーティング・クラス、円建て） 主に、日本国内の取引所に上場している投資信託証券（ETF） マネー・トラスト・マザーファンド 円貨建て短期公社債および短期金融商品等
当ファンドの運用方法	■世界各国の株式、債券および不動産投資信託（リート）等に分散投資します。 ■中長期的な目標リターンとして短期金利相当分＋年3%程度を目指して資産配分を行います。 ■投資対象とする外国投資信託の運用は、ブラックロック・アセット・マネジメント・ノース・アジア・リミテッドが行います。
組入制限	■外貨建資産への直接投資は行いません。
分配方針	■年2回（原則として毎年3月および9月の15日。休業日の場合は翌営業日）決算を行い、分配金額を決定します。 ■分配対象額は、経費控除後の利子、配当等収益と売買益（評価損益を含みます。）等の範囲内とします。 ■分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。 ※委託会社の判断により分配を行わない場合もあるため、将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。 複利効果による信託財産の成長を優先するため、分配を極力抑制します。 (基準価額水準、市況動向等によっては変更する場合があります。)

## ライフ・ジャーニー（かしこく育てるコース）【愛称：最高の人生の描き方】

原則として、各表の数量および金額の単位未満は切捨て、比率は四捨五入で表記しています。ただし、単位未満の数値については小数を表記する場合があります。

### ■ 最近 5 期の運用実績

決 算 期	基 準 (分配落)	価 額		公 社 債 率 組 入 比	投 資 信 託 証 券 組 入 率	純 資 産 額
		税 込 金	騰 落 率			
	円	円	%	%	%	百万円
4 期(2020年 3 月16日)	8,503	0	△16.2	0.0	98.9	7,266
5 期(2020年 9 月15日)	10,379	0	22.1	0.0	99.1	8,599
6 期(2021年 3 月15日)	11,777	0	13.5	0.0	98.6	7,478
7 期(2021年 9 月15日)	12,711	0	7.9	0.0	97.8	8,096
8 期(2022年 3 月15日)	11,867	0	△ 6.6	0.0	99.0	9,110

※基準価額の騰落率は分配金込み。

※当ファンドは親投資信託を組み入れますので、比率は実質比率を記載しています。

※当ファンドの運用方針に対し適切に比較できる指数がないため、ベンチマークおよび参考指数はありません。

### ■ 当期中の基準価額と市況等の推移

年 月 日	基 準	価 額		公 社 債 率 組 入 比	投 資 信 託 証 券 組 入 率
		騰 落	率		
(期 首) 2021年 9 月15日	円		% —	% 0.0	% 97.8
9 月末	12,460		△2.0	0.0	98.7
10 月末	12,781		0.6	0.0	99.2
11 月末	12,615		△0.8	0.0	99.1
12 月末	12,977		2.1	0.0	99.2
2022年 1 月末	12,253		△3.6	0.0	99.4
2 月末	12,039		△5.3	0.0	98.4
(期 末) 2022年 3 月15日	11,867		△6.6	0.0	99.0

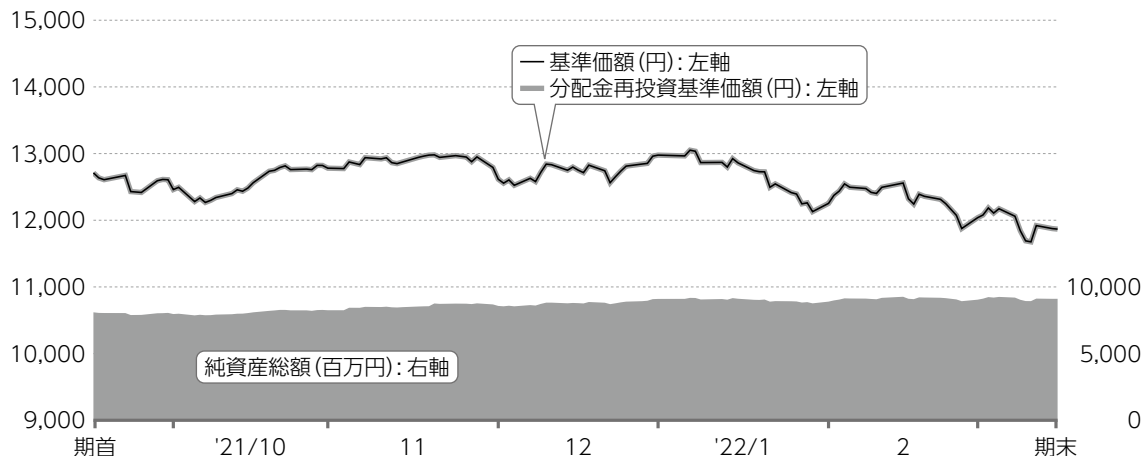
※騰落率は期首比です。

※当ファンドは親投資信託を組み入れますので、比率は実質比率を記載しています。

# 1 運用経過

基準価額等の推移について(2021年9月16日から2022年3月15日まで)

## 基準価額等の推移



※分配金再投資基準価額は、期首の値が基準価額と同一となるように指数化しています。

期首	12,711円
期末	11,867円 (既払分配金0円(税引前))
騰落率	-6.6% (分配金再投資ベース)

## 分配金再投資基準価額について

分配金再投資基準価額は分配金(税引前)を分配時に再投資したと仮定して計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示します。

※分配金を再投資するかどうかについては、受益者の皆さまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額などによって課税条件も異なります。したがって、受益者の皆さまの損益の状況を示すものではありません。(以下、同じ)

※当ファンドの運用方針に対し適切に比較できる指数がないため、ベンチマークおよび参考指数はありません。

**基準価額の主な変動要因(2021年9月16日から2022年3月15日まで)**

当ファンドは、主としてETF（上場投資信託）への投資を通じて世界各国の株式、債券およびリート（不動産投資信託）等に分散投資を行う外国投資信託証券\*を主要投資対象としました。なお、世界の債券に投資するETFについては、為替ヘッジ付きのものを投資対象としています。  
※外国投資信託証券の運用は、ブラックロック・アセット・マネジメント・ノース・アジア・リミテッドが行います。

**下落要因**

- 先進国株式、新興国株式、日本株式が下落したこと
- 米国や日本のリートが下落したこと
- 先進国債券が下落したこと

投資環境について（2021年9月16日から2022年3月15日まで）

株式市場においては、先進国株式、新興国株式、日本株式が下落しました。債券市場においては、米国長期国債市場、米国投資適格債券市場、ハイイールド社債市場も下落しました。リート市場では、米国および日本は下落しました。為替市場では米ドルは対円で上昇しました。ユーロは対円でほぼ横ばいでした。

## 株式市場

日本株式および外国株式市場は下落しました。

期初は、中国の不動産セクター問題や電力不足による製造業への影響、米国のテーパリング(量的緩和の段階的縮小)を巡る警戒感や債務上限問題などから、株式は下落しました。10月に入ると、良好な経済指標や堅調な企業決算などを背景に反発する局面もありました。しかし、11月中旬以降は変異ウイルス(オミクロン型)の感染急拡大や欧米での早期の金融引き締めへの警戒感などを受けて、グローバルに市場のボラティリティ(価格変動性)が大きく上昇する中、株式は軟調となりました。

年初以降は、インフレの高止まりや労働需給のひっ迫などを背景に、各中央銀行がこれまでの想定よりも早期の利上げを迫られるとの観測が強まる中、市場はリスク回避的な動きを強め、リスク資産全般が下落しました。更に、2月に入ると、ウクライナ情勢の緊迫化により市場のセンチメント

(投資家心理)が悪化し、世界同時株安の様相を呈しました。このような状況下、米国株式、欧州株式、日本株式など、幅広い株式市場が下落しました。

## 債券市場

米国長期国債市場は下落(金利は上昇)しました。インフレ圧力の高まりやFRB(米連邦準備制度理事会)による利上げ観測などが背景となりました。リスク回避の動きが強まる中、米国投資適格社債市場および米国ハイイールド社債市場も下落しました。

## リート市場

米国および日本のリート市場は下落しました。主要中央銀行の金融引き締め観測による長期金利の上昇や投資家のリスク回避姿勢を材料に売りが優勢となり、軟調に推移しました。

## 為替市場

米ドル・円は、米国での早期引き締め観測が高まり、日米金利差が拡大するとの見方などを背景に、期を通じて円安基調が続きました。

ユーロ・円は、欧州での金融政策正常化

の前倒し観測からユーロが対円で上昇した局面もありました。しかし、欧州における新型コロナウイルスの拡大やウクライナ情勢を巡る地政学リスクなどを受けてユーロが売られ、期を通してみると、ほぼ横ばいになりました。

## ポートフォリオについて(2021年9月16日から2022年3月15日まで)

### 当ファンド

「ブラックロック・グローバル・インベストメント・トラスト／ブラックロック・エンハンスド・ストラテジック・アロケーション・ファンド(アキュムレーティング・クラス、円建て)」を高位に組み入れて運用を行いました。

**ブラックロック・グローバル・インベストメント・トラスト／ブラックロック・エンハンスド・ストラテジック・アロケーション・ファンド(アキュムレーティング・クラス、円建て)**

#### ●資産配分

年率10%程度のリスク量を目標に、各国の指数に連動する債券、株式といった伝統的資産に加え、ハイイールド社債、新興国株式、内外リートを加え、為替リスクも考慮したうえでポートフォリオ全体のリスク

分散を図り、長期に安定したパフォーマンスを提供することを目標として組入れを行いました。組み入れたETFは、いずれも各資産クラスを代表する指数に概ね連動するもので、グローバルな市場に分散して投資を行うという、当ファンドの目的に適しています。また、各資産への配分比率は、短期的な市場変動の際にも一定の対応力があると思われる比率を勘案したうえで決定しています。

期初は、米国の堅調な経済指標や企業業績などに着目し、国内株式を2割弱程度、外国株式を5割弱程度保有し、外国株式の比率をやや高めとした一方、中期的に金利上昇が見込まれる外国債券のウェイトを3割弱程度保有しました。また、ポートフォリオの収益源を多様化するため、国内外のリートへ1割程度投資しました。

その後、各資産における期待収益率・リスク等の見通し変化に基づき、2021年9月

下旬と2022年1月に資産配分比率を変更（リバランス）しました。9月下旬のリバランスでは、緊急事態宣言解除による経済再開や国内の企業業績見通しの回復を想定し、日本株式の比率をやや高めとした一方、中国経済への懸念から新興国株式のウェイトを引き下げました。また、新興国のクレジットスプレッド（国債に対する上乗せ金利）拡大の影響をより受けやすいと考えられるハイイールド債券のウェイトを引き下げた一方、より安定性が高いと考えられる投資適格債券と先進国国債のウェイトを引き上げました。

その後、1月のリバランスでは、欧米主

要国での金融政策の引き締めへの懸念が高まったことから、先進国株式と日本株式のウェイトを引き下げ、その一部を、市場混乱時における安定性が高いと考えられるMSCI日本株最小分散ETFに配分しました。また、長いデュレーション（投資資金の平均回収期間）を持つ投資適格債券のウェイトを抑制しました。

## マネー・トラスト・マザーファンド

主として、円貨建ての短期公社債および短期金融商品に投資し、安定した収益の確保を目指した運用を行いました。

### ベンチマークとの差異について（2021年9月16日から2022年3月15日まで）

ベンチマークおよび参考指数を設けていませんので、この項目に記載する事項はありません。

### 分配金について（2021年9月16日から2022年3月15日まで）

（単位：円、1万口当たり、税引前）

項目	第8期
当期分配金	0
（対基準価額比率）	(0.00%)
当期の収益	-
当期の収益以外	-
翌期繰越分配対象額	2,646

期間の分配は、複利効果による信託財産の成長を優先するため、見送りとしたしました。なお、留保益につきましては、運用の基本方針に基づき運用いたします。

※単位未満を切り捨てているため、「当期の収益」と「当期の収益以外」の合計が「当期分配金」と一致しない場合があります。

※「対基準価額比率」は、「当期分配金」（税引前）の期末基準価額（分配金（税引前）込み）に対する比率で、当ファンドの収益率とは異なります。

## 2 今後の運用方針

### 当ファンド

引き続き、「ブラックロック・グローバル・インベストメント・トラスト／ブラックロック・エンハンスド・ストラテジック・アロケーション・ファンド(アキュムレーティング・クラス、円建て)」の投資比率を高位に保ちます。

### ブラックロック・グローバル・インベストメント・トラスト／ブラックロック・エンハンスド・ストラテジック・アロケーション・ファンド (アキュムレーティング・クラス、円建て)

短期的には、ウクライナ情勢の先行き不透明感から、ボラティリティの高い市場展開を想定しており、今後の軍事衝突の規模や対ロシア制裁による世界経済への影響等を注視する必要があると考えます。一方、上方リスクとしては、ウクライナでの戦争が欧米の積極的な引き締め見通しをやや弱めたことが、株式市場への支えとなる可能性などが意識されます。新興国においては、ボラティリティの上昇がマイナス要因となるとみています。債券市場については、米国の良好な経済ファンダメンタルズ(基礎的条件)や金融政策が引き締め方向で調整されることなどを勘案すると、中期的にはまだ金利上昇余地があると見ているものの、年

初来金利が急速に上昇したことや、地政学リスクを巡る市場センチメント(市場心理)の動向などを勘案し、上昇幅は限定的と考えています。社債市場は、利回り追求の動きが継続すると見込まれるものの、信用スプレッドの拡大傾向が続いているため、動向を注視しています。

当面は、株式を相対的に高位に保有する一方で、債券の保有は抑制気味とする方針です。ポートフォリオでは、実体経済動向や金融政策動向、各資産のバリュエーション(投資価値評価)などに留意しつつ、中長期的な目標リターンを獲得にむけてリバランスを実施していく方針です。当面の運用方針としては、市場環境を見極めつつ、慎重なリスク量の管理を行なっていく計画です。

### マネー・トラスト・マザーファンド

円貨建ての短期公社債および短期金融商品に投資し、安定した収益の確保を目指します。



## 3 お知らせ

### 約款変更について

該当事項はございません。

1万口当たりの費用明細(2021年9月16日から2022年3月15日まで)

項目	金額	比率	項目の概要
(a) 信託報酬	71円	0.562%	信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率×(経過日数／年日数) 期中の平均基準価額は12,576円です。
（投信会社）	(21)	(0.164)	投信会社:ファンド運用の指図等の対価
（販売会社）	(48)	(0.382)	販売会社:交付運用報告書等各種資料の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
（受託会社）	(2)	(0.016)	受託会社:ファンド財産の保管および管理、投信会社からの指図の実行等の対価
(b) 売買委託手数料	－	－	売買委託手数料＝期中の売買委託手数料／期中の平均受益権口数 売買委託手数料:有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
（株式）	(－)	(－)	
（先物・オプション）	(－)	(－)	
（投資信託証券）	(－)	(－)	
(c) 有価証券取引税	－	－	有価証券取引税＝期中の有価証券取引税／期中の平均受益権口数 有価証券取引税:有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
（株式）	(－)	(－)	
（公社債）	(－)	(－)	
（投資信託証券）	(－)	(－)	
(d) その他費用	0	0.003	その他費用＝期中のその他費用／期中の平均受益権口数 保管費用:海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の送付金・資産の移転等に要する費用 監査費用:監査法人に支払うファンドの監査費用 その他:信託事務の処理等に要するその他費用
（保管費用）	(－)	(－)	
（監査費用）	(0)	(0.003)	
（その他）	(0)	(0.000)	
合計	71	0.565	

※期中の費用(消費税のかかるものは消費税を含む)は、追加・解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出しています。

※比率欄は1万口当たりのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

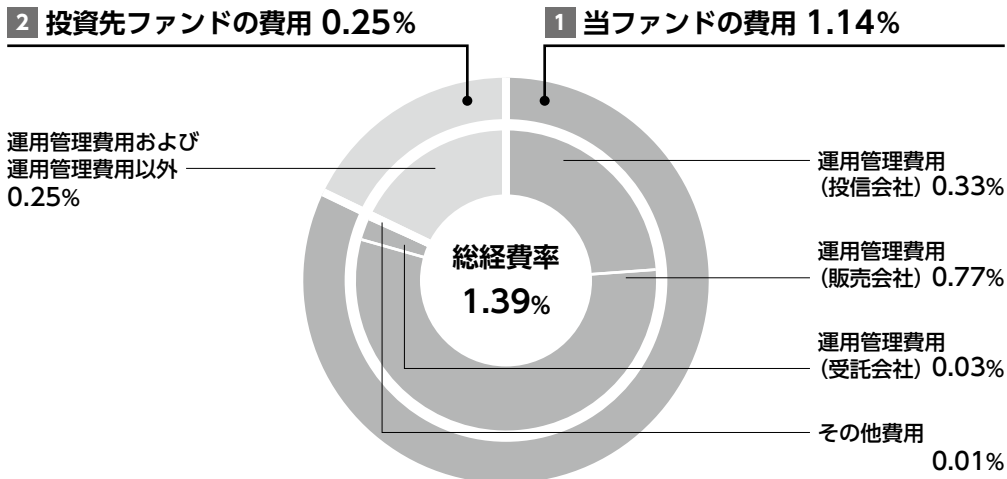
※各項目毎に円未満は四捨五入しています。

※売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、当ファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

※各項目の費用は、当ファンドが組み入れている投資信託証券が支払った費用を含みません。



## 参考情報 総経費率（年率換算）



<b>総経費率 (1 + 2)</b>	<b>1.39%</b>
<b>1 当ファンドの費用の比率</b>	<b>1.14%</b>
<b>2 投資先ファンドの費用の比率</b>	<b>0.25%</b>

※1の各費用は、前掲「1万円当たりの費用明細」において用いた簡便法により算出したもので、各比率は、年率換算した値(小数点以下第2位未満を四捨五入)です。「1万円当たりの費用明細」の各比率とは、値が異なる場合があります。

※2の投資先ファンド(当ファンドが組み入れている投資信託証券(マザーファンドを除く))の費用は、実際に投資しているシェアクラスのデータが入手できない場合は、入手可能なファンド全体のデータをもとに委託会社が計算したものです。運用管理費用と運用管理費用以外の費用を明確に区別できない場合は、まとめて表示しています。投資先ファンドへの平均投資比率を勘案して、実質的な費用を計算しています。

※1と2の費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。また、計上された期間が異なる場合があります。

※上記の前提条件で算出している参考値であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

当期中の運用・管理にかかった費用の総額(原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。)を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額(1口当たり)を乗じた数で除した比率に、投資先ファンドの経費率を加えた総経費率(年率)は1.39%です。

■ 当期中の売買及び取引の状況（2021年9月16日から2022年3月15日まで）

投資信託証券

		買		付		売		付	
		口	数	買	付	額	口	数	売
国内	ブラックロック・グローバル・インベストメント・トラスト/ブラックロック・エンハンスト・ストラテジック・アロケーション・ファンド (アキュムレーティング・クラス、円建て)	128,629	口	1,682,700	千円	—	口	—	千円

※金額は受渡し代金。

※国内には、円建ての外国籍投資信託証券を含みます。

※管理上の都合により、一部の銘柄において属性が変わっている場合があります。

■ 利害関係人との取引状況等（2021年9月16日から2022年3月15日まで）

当期中における利害関係人との取引等はありません。

※利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

■ 第一種金融商品取引業、第二種金融商品取引業又は商品取引受託業務を兼業している委託会社の自己取引状況  
(2021年9月16日から2022年3月15日まで)

該当事項はございません。また委託会社に売買委託手数料は支払われておりません。

■ 組入れ資産の明細 (2022年3月15日現在)

(1) ファンド・オブ・ファンズが組入れた邦貨建ファンドの明細

フ   ン   ド   名	期 首 (前期末)	期 末		
	口 数	口 数	評 価 額	組 入 比 率
	口	口	千円	%
ブラックロック・グローバル・インベストメント・ トラスト/ブラックロック・エンハンスト・ ストラテジック・アロケーション・ファンド (アキュムレーティング・クラス、円建て)	598,613,6403	727,242,9633	9,019,177	99.0
合 計	598,613,6403	727,242,9633	9,019,177	99.0

※組入比率は、純資産総額に対する評価額の比率。

(2) 親投資信託残高

種 類	期 首 (前期末)	期 末	
	口 数	口 数	評 価 額
	千口	千口	千円
マネー・トラスト・マザーファンド	2,543	2,543	2,532

※マネー・トラスト・マザーファンドの期末の受益権総口数は14,965,449口です。

■ 投資信託財産の構成

(2022年3月15日現在)

項 目	期	末
	評 価 額	比 率
	千円	%
投 資 信 託 受 益 証 券	9,019,177	97.4
マネー・トラスト・マザーファンド	2,532	0.0
コ ー ル ・ ロ ー ン 等 、 そ の 他	241,884	2.6
投 資 信 託 財 産 総 額	9,263,594	100.0

## ■ 資産、負債、元本及び基準価額の状況

(2022年3月15日現在)

項 目	期 末
(A) 資 産	9,263,594,320円
コ ー ル ・ ロ ー ン 等	241,884,100
投資信託受益証券(評価額)	9,019,177,343
マネー・トラスト・マザーファンド(評価額)	2,532,877
(B) 負 債	153,114,287
未 払 金	95,400,000
未 払 解 約 金	8,690,301
未 払 信 託 報 酬	48,785,847
そ の 他 未 払 費 用	238,139
(C) 純 資 産 総 額(A-B)	9,110,480,033
元 本	7,676,964,515
次 期 繰 越 損 益 金	1,433,515,518
(D) 受 益 権 総 口 数	7,676,964,515口
1万口当たり基準価額(C/D)	11,867円

※当期における期首元本額6,369,732,329円、期中追加設定元本額1,732,740,466円、期中一部解約元本額425,508,280円です。

※上記表中の次期繰越損益金がマイナス表示の場合は、当該金額が投資信託財産の計算に関する規則第55条の6第10号に規定する額（元本の欠損）となります。

※上記表中の受益権総口数および1万口当たり基準価額が、投資信託財産の計算に関する規則第55条の6第7号および第11号に規定する受益権の総数および計算口数当たりの純資産の額となります。

## ■ 損益の状況

(自2021年9月16日 至2022年3月15日)

項 目	当 期
(A) 配 当 等 収 益	△ 33,679円
受 取 利 息	2,694
支 払 利 息	△ 36,373
(B) 有 価 証 券 売 買 損 益	△ 574,199,581
売 買 益	8,297,641
売 買 損	△ 582,497,222
(C) 信 託 報 酬 等	△ 49,043,975
(D) 当 期 損 益 金(A+B+C)	△ 623,277,235
(E) 前 期 繰 越 損 益 金	1,406,583,373
(F) 追 加 信 託 差 損 益 金	650,209,380
(配 当 等 相 当 額)	( 625,360,175)
(売 買 損 益 相 当 額)	( 24,849,205)
(G) 合 計(D+E+F)	1,433,515,518
次 期 繰 越 損 益 金(G)	1,433,515,518
追 加 信 託 差 損 益 金	650,209,380
(配 当 等 相 当 額)	( 625,360,301)
(売 買 損 益 相 当 額)	( 24,849,079)
分 配 準 備 積 立 金	1,406,623,029
繰 越 損 益 金	△ 623,316,891

※有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

※株式投信の信託報酬等には消費税等相当額が含まれており、公社債投信には内訳の一部に消費税等相当額が含まれています。

※追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

※分配金の計算過程は以下の通りです。

	当 期
(a) 経費控除後の配当等収益	0円
(b) 経費控除後の有価証券売買等損益	0
(c) 収益調整金	625,360,301
(d) 分配準備積立金	1,406,623,029
(e) 当期分配対象額(a+b+c+d)	2,031,983,330
1万口当たり当期分配対象額	2,646.86
(f) 分配金	0
1万口当たり分配金	0

## ■ 分配金のお知らせ

1万口当たり分配金（税引前）	当	期

上記のほか、投資信託財産の計算に関する規則第58条第1項各号に該当する事項はありません。

## ■ 組入れ投資信託証券の内容

### 投資信託証券の概要

ファンド名	ブラックロック・グローバル・インベストメント・トラスト／ブラックロック・エンハンスト・ストラテジック・アロケーション・ファンド（アキュムレーティング・クラス、円建て）
形態	ケイマン籍契約型投資信託（円建て）
主要投資対象	主に、日本国内の取引所に上場している投資信託証券（ETF）
運用の基本方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主にブラックロック・グループが運用するETFであるiシェアーズを通じて様々な資産への投資を行い、値上がり益および利子・配当等収益からなるトータルリターンを獲得を目指します。</li> <li>・ファンドの想定リスクが大きくなる場合は、資産配分を見直し、現金等の保有比率を高める場合があります。</li> </ul>
主な投資制限	<ul style="list-style-type: none"> <li>・有価証券の空売りは行いません。</li> <li>・純資産総額の10%を超える借入れを行いません。</li> </ul>
決算日	毎年12月の最終営業日
分配方針	分配を行わない方針です。
運用管理報酬	<p>純資産総額に対して</p> <p>運用報酬：年0.15%程度 （副投資顧問会社に対する報酬は、投資顧問会社の運用報酬より支払われます。）</p> <p>受託会社報酬：年間1万米ドル</p> <p>管理費用：最大年0.04%程度 （ただし、4万米ドルの年間最低報酬が適用されます。）</p> <p>名義書換代行費用：年0.01%程度</p> <p>ファンドが投資するETFにおいても運用管理費用がかかります。</p>
その他の費用	<p>ファンドの設立費用、取引関連費用、法的費用、会計・監査および税務上の費用ならびにその他の費用を負担します。</p> <p>これらは、ファンドの運営状況等により変動するものであり、事前に料率、上限額等を示すことができません。</p>
申込手数料	ありません。
信託財産留保額	ありません。
投資顧問会社	ブラックロック・アセット・マネジメント・ノース・アジア・リミテッド
副投資顧問会社	ブラックロック・ジャパン株式会社
購入の可否	日本において一般投資者は購入できません。

以下には、「ブラックロック・グローバル・インベストメント・トラスト／ブラックロック・エンハンスト・ストラテジック・アロケーション・ファンド（アキュムレーティング・クラス、円建て）」をシェアクラスとして含む「ブラックロック・グローバル・インベストメント・トラスト／ブラックロック・エンハンスト・ストラテジック・アロケーション・ファンド」の情報を委託会社において抜粋、要約して翻訳したものを記載しています。

■ 損益計算書（2020年1月1日から2020年12月30日まで）

（単位：円）

投資収益：

受取配当金（源泉税控除後：53,553,690円）

421,959,651

収益合計

421,959,651

費用：

投資運用報酬

31,694,902

管理事務代行及びファンド会計報酬

8,451,970

保管報酬

4,718,572

監査報酬

2,874,249

証券代行業報酬

2,365,140

トラスティ報酬

1,058,012

弁護士費用

507,860

支払利息

195,023

その他報酬

138,166

費用合計

52,003,894

純投資収益

369,955,757

実現利益

投資有価証券

67,107,326

外貨取引および為替先渡契約

(1)

純実現利益

67,107,325

未実現評価益の変動

投資有価証券

702,928,057

未実現評価益の純変動額

702,928,057

純実現利益および未実現評価益

770,035,382

運用による純資産の純増加

1,139,991,139



■ 投資明細表（2020年12月30日現在）

株数	銘柄	純資産 比率 (%)	時価 (単位：円)
	上場投資信託 (99.6%)		
	日本 (99.6%)		
636,602	iShares Core Japan REIT ETF	5.8	1,166,891,466
962,178	iShares Core MSCI Emerging Markets IMI ETF	10.3	2,082,153,192
2,108,077	iShares Core MSCI Kokusai ETF	26.2	5,280,732,885
2,478,907	iShares Core TOPIX ETF	22.7	4,590,935,764
420,458	iShares Core U.S. Treasury Bond	5.1	1,035,588,054
685,957	iShares MSCI Japan Minimum Volatility ex-REITs ETF	6.2	1,252,557,482
547,768	iShares U.S. REIT ETF	5.0	1,015,014,104
448,208	iShares USD High Yield Corporate Bond JPY Hedged ETF	5.3	1,066,286,832
973,291	iShares USD Investment Grade Corporate Bond JPY Hedged ETF	13.0	2,618,152,790
	日本合計（取得原価 18,018,751,485円）		<u>20,108,312,569</u>
	上場投資信託（取得原価 18,018,751,485円）		<u>20,108,312,569</u>
	投資合計（取得原価 18,018,751,485円）	99.6	20,108,312,569
	負債を上回る現金およびその他資産	0.4	84,975,731
	純資産	100.0	<u>20,193,288,300</u>

# マネー・トラスト・マザーファンド

第6期（2020年10月13日から2021年10月12日まで）

信託期間	無期限（設定日：2016年1月29日）
運用方針	■主として、円貨建ての短期公社債および短期金融商品に投資し、安定した収益の確保を目指します。

原則として、各表の数量および金額の単位未満は切捨て、比率は四捨五入で表記しています。ただし、単位未満の数値については小数を表記する場合があります。

## ■ 最近5期の運用実績

決算期	基準 円	価額		公社 組入比	債 率	純 資 産
		騰 落	中 率 %			
2期（2017年10月12日）	9,992		△0.1		90.6	10
3期（2018年10月12日）	9,986		△0.1		68.2	10
4期（2019年10月15日）	9,980		△0.1		68.7	10
5期（2020年10月12日）	9,970		△0.1		74.8	12
6期（2021年10月12日）	9,962		△0.1		70.1	15

※当ファンドの運用方針に対し適切に比較できる指数がないため、ベンチマークおよび参考指数はありません。

## ■ 当期中の基準価額と市況等の推移

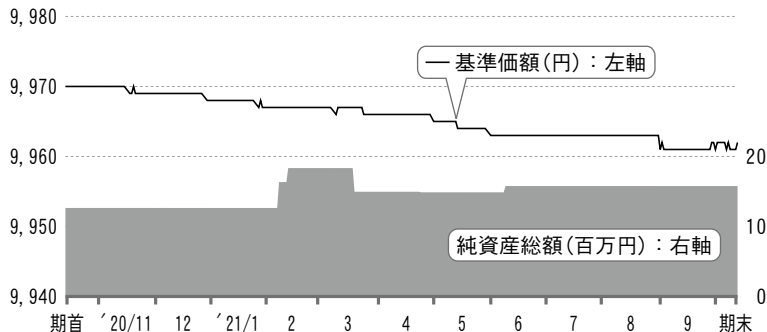
年 月 日	基 準 円	価額		公 社 組 入 比	債 率 %
		騰 落	率 %		
(期首) 2020年10月12日	9,970		—		74.8
10月末	9,970		0.0		74.8
11月末	9,969		△0.0		74.7
12月末	9,968		△0.0		74.8
2021年1月末	9,967		△0.0		74.8
2月末	9,967		△0.0		51.5
3月末	9,966		△0.0		63.1
4月末	9,965		△0.1		66.9
5月末	9,963		△0.1		69.7
6月末	9,963		△0.1		65.7
7月末	9,963		△0.1		65.6
8月末	9,961		△0.1		70.2
9月末	9,961		△0.1		70.1
(期末) 2021年10月12日	9,962		△0.1		70.1

※騰落率は期首比です。

# 1 運用経過

## ▶ 基準価額等の推移について（2020年10月13日から2021年10月12日まで）

### 基準価額等の推移



期首	9,970円
期末	9,962円
騰落率	-0.1%

## ▶ 基準価額の主な変動要因（2020年10月13日から2021年10月12日まで）

当ファンドは、円建ての公社債および短期金融商品などへ投資しました。

### 下落要因

- ・日銀によるマイナス金利政策が継続され、主要投資対象である短期公社債や短期金融商品におけるマイナス利回りが続いたこと

## ▶ 投資環境について（2020年10月13日から2021年10月12日まで）

短期金利は低下しました。

物価の上昇率がマイナス圏で推移したことや、新型コロナウイルスの感染が再拡大したことから、日銀は「長短金利操作付き量的・質的金融緩和」政策を据え置き、日銀当座預金の一部へのマイナス金利付利を継続しました。

日銀が需給動向を勘案し、短期国債の買入れ額を調整したことから、国庫短期証券3ヵ月物利回りは、期初から7月まで横ばいで推移しました。しかし、7月中旬以降は短期国債の発行が大幅に減額され、徐々に需給がひっ迫したことから、8月中旬に利回りは低下しました。

## ▶ ポートフォリオについて (2020年10月13日から2021年10月12日まで)

短期金利は低位での推移が継続するとの見通しから、残存0年から1年3ヵ月までの円建て公社債および短期金融商品で構築したポートフォリオを維持しました。また、マイナス利回りの影響を抑制することに配慮しながら、短期公社債の組入れを行いました。

## ▶ ベンチマークとの差異について (2020年10月13日から2021年10月12日まで)

ベンチマークおよび参考指数を設けていませんので、この項目に記載する事項はありません。

## 2 今後の運用方針

2%の物価安定目標の達成が展望出来ない中、日銀によるマイナス金利政策が継続され、短期国債利回りやコールローン翌日物金利など、主要投資対象である短期公社債および短期金融商品の利回りは引続きマイナス圏での推移を想定します。

残存0年から1年3ヵ月までの公社債や短期金融商品で利回りのマイナス幅が小さい投資対象を選定し、マイナス利回りの影響を抑制することに配慮して運用を行います。

## ■ 1万口当たりの費用明細 (2020年10月13日から2021年10月12日まで)

項目	金額	比率	項目の概要
(a) その他費用 (その他)	0円 (0)	0.004% (0.004)	その他費用＝期中のその他費用／期中の平均受益権口数 その他：信託事務の処理等に要するその他費用
合計	0	0.004	

期中の平均基準価額は9,966円です。

※期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は、追加・解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出しています。

※比率欄は1万口当たりのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

※各項目毎に円未満は四捨五入しています。

## ■ 当期中の売買及び取引の状況 (2020年10月13日から2021年10月12日まで)

公社債

		買付額	売付額
		千円	千円
国内	特殊債券	11,106	(9,400)

※金額は受渡し代金。（経過利子分は含まれておりません。）

※（ ）内は償還等による減少分で、上段の数字には含まれておりません。

※管理上の都合により、一部の銘柄において属性が変わっている場合があります。

## ■ 利害関係人との取引状況等 (2020年10月13日から2021年10月12日まで)

### 利害関係人との取引状況

区 分	買付額等 A	うち利害関係人 との取引状況B	B A	売付額等 C	うち利害関係人 との取引状況D	D C
公 社 債	11	2	25.5	-	-	-

利害関係人とは、投資信託および投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人であり、当期における当ファンドに係る利害関係人とは、SMB C日興証券株式会社です。

## ■ 第一種金融商品取引業、第二種金融商品取引業又は商品取引受託業務を兼業している委託会社の自己取引状況 (2020年10月13日から2021年10月12日まで)

該当事項はございません。また委託会社に売買委託手数料は支払われておりません。

## ■ 組入れ資産の明細 (2021年10月12日現在)

### 公社債

#### A 債券種類別開示

##### 国内（邦貨建）公社債

区 分	期				末		
	額 面 金 額	評 価 額	組 入 比 率	うちBBB格以下 組 入 比 率	残 存 期 間 別 組 入 比 率		
					5 年 以 上	2 年 以 上	2 年 未 満
特 殊 債 券 (除く金融債券)	千円 11,000 (11,000)	千円 11,057 (11,057)	% 70.1 (70.1)	% - (-)	% - (-)	% - (-)	% 70.1 (70.1)
合 計	11,000 (11,000)	11,057 (11,057)	70.1 (70.1)	- (-)	- (-)	- (-)	70.1 (70.1)

※（ ）内は非上場債で内書きです。

※組入比率は、純資産総額に対する評価額の割合。

※管理上の都合により、一部の銘柄において属性が変わっている場合があります。

#### B 個別銘柄開示

##### 国内（邦貨建）公社債

種 類	銘	柄	期			末
			利 率	額 面 金 額	評 価 額	償 還 年 月 日
特 殊 債 券 (除く金融債券)	152	政保道路機構	%	千円	千円	
			1.1000	2,400	2,405	2021/12/28
	159	政保道路機構	0.9000	2,800	2,811	2022/03/18
	163	政保道路機構	0.9010	2,800	2,816	2022/05/31
	40	政保地方公共団	0.8190	3,000	3,023	2022/09/16
合		計	-	11,000	11,057	-

※管理上の都合により、一部の銘柄において属性が変わっている場合があります。

## ■ 投資信託財産の構成

(2021年10月12日現在)

項目	期末	
	評価額	比率
公債	11,057千円	70.1%
コール・ローン等、その他	4,719	29.9
投資信託財産総額	15,776	100.0

## ■ 資産、負債、元本及び基準価額の状況

(2021年10月12日現在)

項目	期末
(A) 資産	15,776,203円
コール・ローン等	4,700,618
公社債(評価額)	11,057,141
未収利息	18,444
(B) 負債	175
その他未払費用	175
(C) 純資産総額(A-B)	15,776,028
元本	15,836,660
次期繰越損益金	△ 60,632
(D) 受益権総口数	15,836,660口
1万口当たり基準価額(C/D)	9,962円

※当期における期首元本額12,685,274円、期中追加設定元本額6,622,216円、期中一部解約元本額3,470,830円です。

※上記表中の次期繰越損益金がマイナス表示の場合は、当該金額が投資信託財産の計算に関する規則第55条の6第10号に規定する額(元本の欠損)となります。

※期末における元本の内訳は以下の通りです。

世界コーポレート・ハイブリッド証券ファンド2017-03	871,211円
ライフ・ジャーニー(かしこく育てるコース)	2,543,560円
ライフ・ジャーニー(かしこく使うコース)	2,453,434円
ライフ・ジャーニー(充実して楽しむコース)	721,009円
人生100年時代・世界分散ファンド(資産成長型)	100,141円
人生100年時代・世界分散ファンド(3%目標受取型)	100,141円
人生100年時代・世界分散ファンド(6%目標受取型)	100,141円
人生100年応援ファンド(資産成長コース)	64,109円
人生100年応援ファンド(ちよっぴり受取コース)	32,055円
人生100年応援ファンド(おもいっきり受取コース)	24,041円
MF S・グローバル株式ファンド	100,181円
テトラ・エクイティ	1,503,157円
ボンド・ゼロトリプル(予想分配金提示型)	300,632円
ボンド・ゼロトリプル(資産成長型)	300,632円
テトラ・ネクスト	3,712,251円
MF S米国中型成長株式ファンド(為替ヘッジあり)	1,003,311円
MF S米国中型成長株式ファンド(為替ヘッジなし)	1,003,311円
PIMCOグローバル・ターゲット戦略債券ファンド2021-06(原定追加型)	903,343円

※上記表中の受益権総口数および1万口当たり基準価額が、投資信託財産の計算に関する規則第55条の6第7号および第11号に規定する受益権の総数および計算口数当たりの純資産の額となります。

## ■ 損益の状況

(自2020年10月13日 至2021年10月12日)

項目	当期
(A) 配当等収益	98,990円
受取利息	103,125
支払利	△ 4,135
(B) 有価証券売買損益	△ 110,738
売却	△ 110,738
(C) その他費用等	△ 525
(D) 当期損益金(A+B+C)	△ 12,273
(E) 前期繰越損益金	△ 37,607
(F) 解約差損益金	11,464
(G) 追加信託差損益金	△ 22,216
(H) 合計(D+E+F+G)	△ 60,632
次期繰越損益金(H)	△ 60,632

※有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

※追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

※解約差損益金とあるのは、中途解約の際、元本から解約価額を差し引いた差額分をいいます。

## ■ お知らせ

<約款変更について>

該当事項はございません。